

令和6年4月1日
(ホームページ掲載版)

令和6年度 江戸川区立瑞江中学校経営方針

校長 薦 田 敏

はじめに

令和6年の教育方針・指導の重点などは、『令和6年度 教育課程について(届) 23 瑞江中イ2-5第14号 令和6年3月11日』に示してある。4月1日に校長の交代があったが、令和6年度の全体を通じてこれを維持する。以下枠内に一部を転記する。

『自ら育つ』の本教育目標のもと
み= 認め合う生徒 ず= ずるを許さない生徒 え= 笑顔を心掛ける生徒
をスローガンに以下の生徒像を掲げ教育活動を推進する。

- ・思いやりの気持ちと豊かな心を持ち、ルールを守る生徒
- ・意欲的に学力向上に努力する生徒
- ・積極的に体力向上に努力する生徒
- ・物事に真摯に取り組み、誠実な生徒

を生徒・学校・家庭・地域社会がチームとなって連携を深め育成する。

以上を踏まえた上で、重なる部分もあるが、以下も令和6年度に着任した校長の経営方針として示す。

瑞江中学校の教育目的

家庭教育・小学校教育の成果を根本に置き、生徒一人一人の有する能力を伸ばし、社会基本的資質・能力を育む教育を行う事を本校の教育目的とする。

瑞江中学校の教育目標

『自ら育つ』

知・徳・体バランス良く教育する事を内外に示すため、以下の理念も同時に掲げる。

- 一、ものごとを正しく深く考え想像力の富んだ人になる(学習)
- 一、健康なからだで豊かな心情の人になる(心身)
- 一、思いやりの心を持ち進んで協力する人になる(協調)

学校経営方針を達成するための今年度の課題

(1) 最重点課題【学力の向上】

令和6年度は特に、ドリルパークや学力向上プロジェクトなどの江戸川区教育委員会の用意したものを十分に活用して、『学力の向上』の実現に向けた教育活動を具体的に展開する。そのため、国語・数学・英語の全教員からなる「校内学力向上プロジェクト推進局」を設置する。学力の向上プロジェクトを具体的に活用する。

(2) 【体験活動の充実】

- ・生徒は、新型コロナウイルス感染症などによって、数年にわたり十分な体験活動を実施することが出来なかったことを踏まえ、教科の授業や学校行事などで、様々な直接体験活動を計画・実施することで、問題発見や問題解決能力の育成に資する。もって生徒に主体性をもたせて、自信や意欲を高めていく。
- ・ボランティア活動や地域活動・コンクール等への参加を奨励し、各教員が少なくとも年に1回は生徒に実践させる活動を行う。

(3) 【学習活動の充実】

- ・授業計画をより一層しっかりしたものにするため、教科の授業時間は全て50分とする。
- ・教員の授業時数確保に対する意識を徹底するため、全教員の週案に累計時数を記載させる。
- ・自習は授業ではない事を踏まえ、前年度授業カウントした定期考査前の「学習の時間」は廃止する。
- ・副担任も担任であるから、全員総合的な学習の時間や給食指導、及び一部の道徳授業などに入る。
- ・校外の研修会を活用して計画的に教員の指導力を高めて、授業の質的向上を目指す。
- ・授業参観や学校公開日の授業は、特に念入りに計画して実施することとする。
- ・放課後補習教室を積極的に活用して、必要な生徒への指導を徹底する。
- ・漢字検定・英語検定・数学検定を計画的に実施する。
- ・「全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、ICT機器の積極的な活用が不可欠である。」との考えに立ち、時代の要請に合致した教育活動を積極的に推進する。
教員は全員、タブレットを活用した授業を、毎週実施し、月2回は宿題も課す。
- ・教員は、江戸川区の教育施策である「江戸川区立中学校における運動部活動・文化部活動の方針」等に基づき、適正な部活動指導を行う。

(4) 【生命・人権尊重教育の推進】

- ・教育活動全体を通してあらゆる差別や偏見・体罰をなくし、命や食の大切さを学ばせ、自他共に思いやる豊かな心を育てる。また、教員と生徒（不登校・別室登校の生徒を含む）がノート交換をするなどして、具体的に教育相談を充実させ、生徒一人一人の成長を促し、いじめの根絶と不登校生徒の解消を目指す。
※不登校の生徒とのやりとりは、タブレットのチームスの活用も可とする。
- ・ふるさと「えどがわ」を愛する心と、日本や世界の文化と伝統を尊重する生徒を育てるために、人間的ふれあいを深めながら望ましい人間形成を育成することを意図した、地域学習や国際理解教育を推進する。
- ・東京都教育委員会の「人権プログラム」文部科学省の「生徒指導提要」の活用をも

とにした生徒指導の充実と規範意識の醸成・関係諸機関との連携協力・自主自律の精神の育成・キャリア教育の推進などを進め、いじめや不登校対策を行う。

(5) 【共育の考えに立った信頼関係の構築】

- ・管理職は「イクボス宣言」を行うとともに、実体の伴った定時退勤日の設定など、長時間勤務の根絶などの働き方改革を推進して、質の高い学校教育を実現する。
- ・生徒と教師の絆・保護者及び地域との連携・小中高の連携・体罰暴言等の根絶。校務改善を進めるために、校務分掌組織の改編と主幹教諭・指導教諭・主任教諭によるOJTを推進するとともに、SC・SSWとの連携を組織的に行っていく。
- ・経営支援部の機能を向上に資する定例会議を設定すると共に、SSSや副校長補佐確保と活用を推進する。
- ・学校応援団の組織を、生徒ニーズ・学校の実態に合ったものにするるとともに、学校評議員による外部評価や学校関係者評価を実施して改善を図る。

(6) 【令和6年度に目指す姿】

○目指す学校像

関係者から次のように評価される学校を目指します。

- ①生徒が大切にされ、厳しさのなかに温かさや優しさのある指導をする学校
- ②教師と生徒が強い信頼の絆で結ばれている、保護者・地域に信頼される学校
- ③組織的に運営され、教職員個々の持ち味が生かされ、活力のある学校
- ④授業時数の確保はもちろん、質の高い週案を元にした授業が展開されている学校

○目指す生徒像

生徒には礼儀正しくする。ルールを守る。など、自省的な素直さを求めます。

- ①意欲的に学力向上に努力する生徒
- ②思いやりの気持ちと豊かな心を持ち、ルールを守る生徒
- ③積極的に体力向上に努力する生徒
- ④物事に真摯に取り組み、誠実な生徒

○求める教職員像

教職員には、人の発達や思春期の生徒を理解して適切に指導する専門性はもちろん、育成を目指す資質・能力を明確にした教科指導等、時代や社会の要請に合わせて公教育に求められることを十分指導できるよう、自身の専門性を高め続ける姿勢を求めます。

- ①生徒に対する愛情と厳しさを持ち、公平に接し、共感的態度で指導に当たる教職員
- ②常に授業改善に努め、わかる授業を展開し時代の求める学力を身につけさせる教職員
- ③職務能力向上に努め、持ち味を発揮して、学校運営に主体的・組織的に関わる教職員
- ④あいさつ・服装を正す・提出期限の遵守など、率先垂範して生徒の手本となる教職員